

科目	学年・小学科	単位数
財務会計Ⅰ	1年・会計ビジネス科	3（後期履修7）
教科書	実教出版「新財務会計Ⅰ」新訂版	
副教材	実教出版「最新段階式 簿記検定問題集」 全商1級 改訂版	

## 1. 学習目標

<p>1. 財務諸表の作成に関する知識や技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させる。</p> <p>2. 財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。</p>
---

## 2. 学習方法

<p>○授業：講義と演習で基本的な知識と技術を身につけさせます。配布プリントやワークの問題を繰り返し行い知識を定着させます。各取引をビジネスに関する実務と関連付けて理解させます。グループでの作業学習や各グループごとの発表を通じて表現する機会を設定します。</p> <p>○予習：進んで事前に教科書に目を通し、ワークの問題に取り組み、理解できないところを確認をしていくことが望ましい。</p> <p>○復習：毎時間終了後、課題プリントを課すので、家庭学習でも授業内容を復習すること。</p> <p>○課題：毎時間課題プリントを課します。単元終了時や長期休業など、適宜復習用の課題を課す。</p>
--

## 3. 評価の観点と趣旨

① 関心・意欲・態度	財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。
② 思考・判断・表現	いろいろな処理法や記帳法、財務諸表の作成方法について、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
③ 技能	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。
④ 知識・理解	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、財務会計の意義や制度について理解している。
⑤	

科目名	学年・小学科	単位数
財務会計Ⅰ	1年会計ビジネス科	3

学期	単元		学習内容	重点をおく評価の観点					単元の評価規準	評価方法	
				①	②	③	④	⑤			
後期中間	第1編	財務会計の基礎	第1章 企業と会計	1. 企業会計の意味と役割 2. 企業会計の機能 3. 会計公準 4. 会計の歴史	○	○		○		①企業会計の意義と役割、財務会計の機能および会計法規と会計基準について関心を示している。 ②企業会計制度と会計法規についての的確に説明できる。 ③企業会計の基礎的内容を理解し、企業会計制度と会計法規に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。  ①資産・負債・純資産に関する理論や処理法、さらに貸借対照表の作成について関心を持ち、自分から進んでまとめようとする。また、意欲的に問題演習に取り組み、学習の進捗度を確認しようとする態度が見られる。 ②資産は原則として取得原価で評価するのはなぜか、売買目的有価証券など一部の資産を時価で評価するのはなぜか、費用配分の原則は、なぜ必要か、純資産の部は、どうしてあのような構造になっているのか、明瞭かつ有用な貸借対照表を作成するためには、どうしたらよいかなどについて考え、適切に判断して学習を進めている。 ③資産・負債・純資産に関する処理法や貸借対照表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、会社計算規則に基づく貸借対照表を作成することができる。 ④資産・負債・純資産に関する処理法や貸借対照表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、会社計算規則に基づく貸借対照表を作成することができる。また、貸借対照表に関する基本的な会計理論についても、理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 グループワーク
			第2章 企業会計制度と会計法規	1. 企業会計制度 2. 会計法規 3. 企業会計原則と企業会計基準 4. 財務諸表の種類	○	○		○			
	第2編	貸借対照表	第3章 貸借対照表のあらまし	1. 貸借対照表とその役割 2. 貸借対照表の区分 3. 貸借対照表の様式	○	○		○			
			第4章 資産の意味・分類・評価	1. 資産の意味 2. 資産の分類 3. 資産の評価	○	○		○			
			第5章 流動資産(1 当座資産)	1. 当座資産の意味 2. 現金預金 3. 受取手形 4. 売掛金 5. 有価証券	○	○	○	○			
			第6章 流動資産(2 棚卸資産・その他の流動資産)	1. 棚卸資産の意味 2. 棚卸資産の取得原価と費用配分の原則 3. 払出価額と期末棚卸高の計算 4. 棚卸資産の期末評価 5. 売価還元法 6. その他の流動資産	○	○		○			
			第7章 固定資産(1 有形固定資産)	1. 有形固定資産の意味 2. 有形固定資産の取得原価 3. 資本的支出と収益的支出 4. 有形固定資産の期末評価 5. 減価償却 6. 固定資産の除却と買い替え	○	○		○			
			第8章 固定資産(2 無形固定資産)	1. 無形固定資産の意味 2. 無形固定資産の取得原価 3. 無形固定資産の期末評価	○	○		○			
			第9章 固定資産(3 投資その他の資産)	1. 投資その他の資産の意味 2. 投資有価証券の期末評価 3. 子会社株式・関連会社株式の期末評価	○	○		○			
			第10章 負債の意味と分類	1. 負債の意味 2. 負債の分類	○	○		○			
			第11章 流動負債	1. 流動負債の意味 2. 引当金の意味 3. 役員賞与引当金 4. 保証債務	○	○		○			
			第12章 固定負債	1. 固定負債の意味 2. 社債 3. 長期借入金 4. 退職給付引当金 5. 偶発債務	○	○		○			
			第13章 純資産の意味と分類	1. 純資産の意味 2. 純資産の分類	○	○		○			
			第14章 資本金	1. 株式会社の資本金 2. 資本金の増加 3. 資本金の減少	○	○		○			
			第15章 資本剰余金	1. 資本剰余金の意味 2. 資本準備金 3. その他資本剰余金 4. 会社の合併	○	○		○			
			第16章 利益剰余金	1. 利益剰余金の意味 2. 利益準備金 3. 任意積立金 4. 繰越利益剰余金 5. 剰余金の配当	○	○		○			

	第17章 自己株式	1. 自己株式の意味 2. 自己株式の取得 3. 自己株式の処分 4. 自己株式の消却	○	○		○					
	第18章 貸借対照表の作成	1. 棚卸法と誘導法 2. 貸借対照表の作成に関する原則 3. 貸借対照表の配列 4. 貸借対照表に関する注記 5. 貸借対照表の作成例	○	○	○	○					
第3編	損益計算書	第19章 損益計算のあらし	1. 損益計算書とその役割 2. 損益計算書の区分 3. 損益計算書の様式	○	○		○	①収益・費用に関する理論や処理法、さらに損益計算書の作成について関心を持ち、自分から進んでまとめようとする。 また、意欲的に問題演習に取り組み、学習の進捗度を確認しようとする態度が見られる。実在する企業の損益計算書などインターネットなどを利用して入手しようとする。 ②費用の認識基準が発生主義で、収益の認識基準が実現主義であるのはなぜか、費用収益対応の原則はなぜ必要か、特殊な商品売買における収益の実現はどうなっているのか、明瞭かつ有用な損益計算書を作成するためには、どうしたらよいかなどについて考え、適切に判断して学習を進めている。 ③収益・費用に関する処理法や損益計算書の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、会社計算規則に基づく損益計算書を作成することができる。 また、損益計算書に関する基本的な会計理論の構造についても、的確に説明できる。 ④収益・費用に関する処理法や損益計算書の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、会社計算規則に基づく損益計算書を作成することができる。 また、損益計算書に関する基本的な会計理論についても、理解している。			
		第20章 損益計算の意味と基準	1. 損益計算の意味 2. 損益計算の基準	○	○		○				
		第21章 売上高	1. 売上高 2. 工事収益	○	○		○				
		第22章 売上原価、販売費及び一般管理費	1. 売上原価 2. 販売費及び一般管理費	○	○		○				
		第23章 営業外収益・営業外費用	1. 営業外収益 2. 営業外費用 3. 経常利益・経常損失	○	○		○				
		第24章 特別利益・特別損失	1. 特別利益 2. 特別損失 3. 当期純利益	○	○		○				
		第25章 損益計算書の作成	1. 損益計算書の作成に関する原則 2. 損益計算書に関する注記 3. 損益計算書の作成例	○	○	○	○				
		第26章 その他の財務諸表	1. 株主資本等変動計算書 2. 注記表 3. 附属明細書	○	○	○	○				
第4編	財務諸表の活用	第27章 財務諸表のディスクロージャー	1. 企業と利害関係者 2. ディスクロージャー	○	○		○	①ディスクロージャーのあり方や財務諸表の活用に関心を持ち、自分から進んで資料を集めたり、実在する企業の財務諸表分析に意欲的に取り組もうとする。 ②財務諸表を分析することによって何がわかるのかなどについて考え、企業の状況に関して適切な判断を行うことができる。 ④ディスクロージャーのあり方について理解するとともに、財務諸表分析に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また、財務諸表の活用の仕方を理解している。			
		第28章 財務諸表分析	1. 財務諸表分析の意味 2. 財務諸表分析の方法 3. 関係比率法による分析 4. 実数法による分析	○	○		○				
後期末	第5編	連結財務諸表	第29章 連結財務諸表のあらし	1. 企業グループと連結財務諸表 2. 親会社と子会社 3. 連結財務諸表の重要性	○	○	○	○	①連結財務諸表の作成に関する考え方や処理法などについて学習し、自分から進んでまとめようとする。 また、意欲的に問題演習に取り組み、学習の進捗度を確認しようとする態度が見られる。 ②連結財務諸表はどのような点が有用なのか、投資と資本の相殺消去の仕訳や開始仕訳にはどのような意味があるのか、のれんを償却するのはなぜか、支配獲得日後に生じた子会社の純利益を振り替えるのはなぜか、連結貸借対照表・連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書の相互の関係はどのようになっているのかなどについて考え、適切に判断して学習を進めている。 ③連結財務諸表の作成に関する考え方や仕訳などの基礎的・基本的な技術を身につけ、連結貸借対照表・連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書を作成することができる。 ④連結財務諸表に関する各種の仕訳の意味を理解し、連結貸借対照表・連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書作成のための知識を身につけている。		
			第30章 連結財務諸表の作成(1)	1. 連結貸借対照表の作成手続き 2. 子会社の資産および負債の時価評価 3. 親会社の投資と子会社の資本の相殺消去 4. 投資と資本の相殺消去 持株比率が100%の場合 5. 投資と資本の相殺消去 持株比率が100%未満の場合 6. 連結精算表の作成	○	○	○	○			
			第31章 連結財務諸表の作成(2)	1. 連結決算日の手続き 2. 開始仕訳 3. 当期分の連結修正消去仕訳 4. 連結財務諸表の表示方法	○	○	○	○			
		総合演習						○	○	○	○